

平成 25 年度 第 3 回長野市総合計画審議会 会議録

日時：平成 26 年 1 月 22 日(水) 15 時 30 分～17 時 30 分

会場：長野市役所 第二庁舎 10 階 講堂

1 開会

(事務局)

定刻になりましたので、ただいまより、「平成 25 年度 第 3 回 長野市総合計画審議会」を開会いたします。

私、本日の進行を務めます、企画政策部企画課長補佐の横山と申します。よろしく願いいたします。

委員の皆様には、公私とも大変お忙しい中、ご出席いただきまして、誠にありがとうございます。また、大杉先生におかれましては、ご講演後のお疲れのところ、オブザーバーとしてご出席いただき、誠にありがとうございます。

本日の会議であります。本市の指針として、公開で開催することとしてまいりますので、ご了承ください。

ここで、資料の確認をお願いします。本日の資料は、事前にお送りしました資料が 3 点ございます。

平成 25 年度 第 3 回長野市総合計画審議会 会議次第、人口減少時代に対応した長野市のまちづくり、先進事例の紹介になります。不足の資料等がありましたら、お近くの事務局職員にお申しつけください。

それでは、会議次第に従い、進行いたします。

はじめに、総合計画審議会 藤沢謙一郎会長からご挨拶をお願いいたします。

2 会長あいさつ

(藤沢会長)

新年を迎え、ご多忙の中お集まりいただき、ありがとうございます。

大杉先生におかれましては、ご講演後のお疲れのところ、オブザーバーとしてご出席いただき、ありがとうございます。大杉先生には、後ほど、審議会のご感想や今後のアドバイス等をお伺いしたいと思いますので、よろしくお願いします。

先ほどの勉強会において、大杉先生から「人口減少をチャンスに変える」と題したご講義をお聞きし、人口が減っても、明るいイメージを持って、将来像を描くことができたの

ではないでしょうか。

本日は、事務局から、人口減少に伴う行政各分野への影響に関する調査結果と、先進事例の紹介があり、その後、委員の皆さんからご意見をいただく予定です。

本日も限られた時間ではありますが、活発なご協議をお願いいたします。

3 議事

(事務局)

ありがとうございました。

それでは、審議に移らせていただきますが、審議の時間について、事務局としましては17時15分をめぐりにお願いしたいと思っておりますので、御協力をお願いいたします。

また、議事において、委員の皆様が発言される場合は、お手数ですが、挙手していただき、議長の指名でお手元にマイクをお持ちしますので、お名前をおっしゃってから、お座りになったまま発言することをお願いしたいと思います。

なお、議長につきましては、長野市総合計画審議会条例第6条第1項の規定により、藤沢会長をお願いいたします。

(藤沢会長)

本日の議事に入ります。

次第の3(1)「人口減少に伴う行政各分野への影響について」と(2)先進事例の紹介を議事とします。

事務局から説明してください。

(事務局)

はじめに、次第3(1)人口減少に伴う行政各分野への影響について、ご説明いたします。

資料1の1ページをご覧ください。

－ 資料に基づき説明 －

以上で説明を終わります。

(藤沢会長)

(1)「人口減少に伴う行政各分野への影響について」と、(2)先進事例の紹介について

での説明がありました。

続いて、議事（3）「意見交換」に移りたいと思います。

人口減少時代に対応したまちづくりについては、これまで審議を重ね、委員の皆様からは多数のご意見をいただいておりますが、先ほどの大杉先生のご講演をお聴きし、新たに思うこともあったかと思っておりますので、今回改めて、皆様からご意見等を伺いたいと思っております。

また、先ほどの事務局からの説明に対するご質問等があれば、併せてお願いします。

なお、委員の皆様には、後日改めてペーパーでご意見をいただきたいと考えておりますが、本日は時間の許す限り、意見交換をしていただければと思います。

それでは、どなたからでも結構ですので、ご発言をお願いします。

（島田委員）

資料2の富山県舟橋村の説明で、適正人口を設定して、その中で住民の幸せを考えていくというお話がありましたが、長野市は適正人口を設定しているのでしょうか。

（事務局）

長野市として、適正人口という形で定めたものではありません。資料2に、それぞれの都市の人口密度が載っていますが、森林面積等も含めて計算しているので、可住地面積で計算すれば、少し変わってくるかもしれません。

実際、長野市にはかなりの農地があり、理論上は住もうと思えば住めるので、もっと可住地面積を広げられます。富山県舟橋村は、市域の全体が市街化区域で、どんなに開発をしても1世帯あたりの面積に限界があるので、適正人口を設けて管理をされているのだと思います。

（藤沢会長）

島田委員は、適正人口を設定した方が良いと思われませんか。

（島田委員）

富山県舟橋村のお話を聞いて、可住地域を広げていくことを考えるのではなく、限られた中で、住民の幸せのために尽くしていくという方法もあると思いました。しかし、お話を聞いて、舟橋村の可住地域は有限ですが、長野市の場合は、可住地域を広げていくという可能性もあると思いました。

（猪俣委員）

資料1の6ページに保健福祉分野への影響例が出ていますが、確かに今後出生者数は減少していくと思います。現在、夫婦が生む子どもの数は、平成24年では1.41人といわれ

ていますが、長野市のこの数が2人以上に増えれば、人口の減り方も違ってくると思います。

長野市として、子どもを増やすための考えはありますか。

(駒津保健福祉部長)

加藤市長の公約の中に、来年4月に子ども支援部(仮称)を設置するとあります。子どもに関することは、現在の保健福祉部保育家庭支援課に代わって、子ども支援部が重点的に携わっていくこととなります。

国では、婚活に力を入れていくという話が出ています。今まで結婚については、個人の思想の自由という観点から、行政が携わるのはそぐわないのではないかとということで、民間や地区の社会福祉協議会が行う婚活イベントのみでしたが、これからは子ども支援部の中でできるように検討していきたいと思います。

また、親がいかに安心して子育てができるかということを市民の皆さんにアピールして、安心して子どもを生める環境を作っていきたいと思います。

4月以降のことであるため、まだ具体的にお答えができなくて申し訳ありませんが、そのような形で進めていきたいと思います。

(内山委員)

資料2の千葉県流山市のところで、「母・父になるなら、流山市」「学ぶ子にこたえる、流山市」というキャッチフレーズがとても良いと思いました。子育て、子育ての両面の立場から考えられたものではないかと思います。

無事に生れてきてくれた子どもたちに対する支援としてお願いしたいことがあります。まず、医療費の無償化についてです。現在、子どもの医療費について、中学3年生や18歳の3月31日まで無償という自治体が多い中、長野市は小学6年生までとなっています。早速、子ども支援部で検討していただきたいと思います。

加えて、インフルエンザの予防接種に関しても、高齢者の方に補助があるように、子どもたちにもお願いしたいと思います。

(駒津保健福祉部長)

インフルエンザの予防接種についてですが、現在、長野市では65歳以上の方には助成をさせていただいていますが、子どもさんに対しては助成をしていません。厚生労働省のまとめでは、インフルエンザの予防接種をした子どものうち、3/4がインフルエンザにかかったという結果が出ており、子どもに対しては、大人ほど予防接種の効果がないとされています。小児用肺炎球菌ワクチンや高齢者用肺炎球菌ワクチンの予防接種に関しては、将来的には助成をするという話もありますが、インフルエンザに関しての予定はありません。

現在、子どもさんに対する医療費については、小学6年生までは無償という形になっています。長野県内を見ると、長野市の他にもう1つの自治体を除いては、中学3年生まで無償という状況になっています。これについては、議会でも答弁させていただきましたが、子ども支援部を立ち上げる中で検討させていただきたいと思います。

他の自治体は、首長が代わるタイミングで、医療費無償の対象年齢が上ってきたという経過がありますが、福祉サービスは都市間で競い合うものではなく、国がしっかりとした政策を打ち出して対応すべきものであり、この施策によって、子育てに優しい市であるとか、厳しい市であるといったことではないと思います。他市町村の状況を見ながら検討していますが、年齢が上るに従って、医療にかかる費用は少なくなってくるので、子育て中の保護者の方々の安心のためにも、小学6年生までは医療費を無償にしているというのが現状です。

(大日方委員)

私の住む鬼無里地区は、8年前に長野市と合併しました。今日拝聴した大杉先生のお話が、鬼無里地区にも当てはまる気がしました。鬼無里地区にも住民自治協議会があるのですが、住民の自治意識が合併によって低下してしまい、地域ガバナンスというものが、もしかしたら消えてしまうのではないかという心配があります。

鬼無里地区の高齢化率は、52%くらいになっているのですが、それを改善するためにいろいろと考えています。私たちのNPOグループは、エネルギー問題が鬼無里地区で取り上げるべき課題だと思っています。

先ほど紹介していただいた9つの自治体においては、エネルギーの問題を扱っていないので、今後長野市は、化石燃料に依存する文明から、自然エネルギーに移行していくということを重点課題として考えていただきたいと思います。

先月、気候変動に関する政府間パネル(IPCC)の第1作業部会第5次評価報告書が出されました。それによると、CO2排出量の削減を真剣に考えないと、地球は取り返しのつかないことになってしまいます。

現在、どんどん温度が上り異常気象が地球全体で発生しています。温度が上がると、宇宙に放出されるエネルギー量が増えて、温度を下げるネガティブフィードバックが起こるのですが、ある温度を超えると、今度は温度を上げる方向にフィードバックが向いてしまいます。そうすると、地球には生物が住めない状況になるだろうという心配があります。日本はエネルギー問題に無関心すぎるのではないかと世界から非難されました。地球全体が持続可能な生命の惑星として存在し得るかどうかという段階にきています。

鬼無里では、薪を作り始めました。灯油を使うことを止めて、できるだけ自然エネルギーに切り替えるよう皆で頑張ろうという話をしています。長野市の柱の1つに、エネルギーの問題を入れていただきたいと思います。

(北村委員)

先ほどの大杉先生の講演で、発想の転換や資源の見直しをする必要があるというお話があり、農地とエネルギーの結び付きについて考えた時に、南斜面、東斜面で遊休農地となっているところを利用して、太陽光パネルを設置すれば良いと思いました。費用はかかるかもしれませんが、農業用ハウスで使うような柔らかい素材でできるようになってきたので、どんどん取り入れるべきだと思います。取り付けが簡単なものも出てきているので、小学校や市民会館など、建物の屋上にパネルを設置し、長野市で使うエネルギーは自分たちで太陽光を利用して賄うのも1つの案だと思います。

各部長さんたちにお聞きしたいのですが、各部の中で新しい資源を見つけようとした時に、部下から出た意見をどのように取り入れようとお考えですか。

(上杉庶務課長)

市役所全体としては、職員提案制度というものを活用しています。これは、どんなに小さなことでも、他の部局のことであっても良いので、気づいたことを提案してほしいというもので、かなりの提案数になっています。提案が他の部の仕事の場合、影響があったり、仕事が増えてしまうのではないかなど、提案する職員にとっては、いろいろと危惧することもあるかもしれませんが、思ったとおりに提案してほしいと呼びかけているので、これから機能していくのではないかと思います。

(中村委員)

資料の3ページを見ると、大学進学時に県外に出て行く人数がとても多いことが分かりますが、県短(長野県短期大学)の4年制化の話を進めていただければ、若い人たちが長野市に留まるのではないかと思います。そして、大学卒業後に働ける場を作ることを考えてほしいと思います。

長野市の特徴的な取組や、キーワードは何でしょうか。私は、山紫水明、善光寺が思い浮かびます。今あるものに加えて、長野駅前にもっと緑を増やし、市内にたくさんの学生がいてほしいと思います。

(藤本委員)

講演をお聞きしたり、資料を見させていただくと、各市のキーワードとなる施策に重点的な配分をして、体力があるうちにまちを活性化させることが必要だと思います。今お話があったように、長野市の強みとは何だろうと思います。大都市のベッドタウンを作って人口を増やした市がいくつか紹介されましたが、イベントを開催し人を呼び込む時にも、長野市の強みを共通認識として持つことが必要だと思います。

私は、健康、子育て、自然といったものが長野市のキーワードとして思い浮かびますが、これは人を呼び込む時の大きなポイントになると思います。

(酒井委員)

人口減少を、どのようにチャンスに変えるのか非常に興味があり、講演をお聞きしました。平成 27 年に北陸新幹線が金沢市まで延伸するので、富山市へ L R T (次世代型路面電車システム) を見学に行ったり、金沢市のホームページを見たりしました。金沢市の都市像『世界の「交流拠点都市金沢」をめざして』は、非常に分かりやすい言葉で目指す方向が書かれています。総合計画の中で、長野市の都市像やイメージをもう一度考える必要があると思います。現在の「～善光寺平に結ばれる～人と地域がきらめくまち“ながの””というのには分かりにくいと思います。もう少し明確な言葉で都市像を表す必要があると思います。

人口減少は、すでに日本中で始まっていて、定住人口を増やすのか、交流人口を増やすのかということになってくると思います。長野市は、交流人口を増やすための施策を考えており、それは大事なことだと思いますが、長野市のホームページを見ると、情報は多いけれど分かりにくいです。外国の人が見た時に、もう少し分かりやすい内容が必要だと思います。

私は、20 年ほど前の青年会議所時代に、上信越の連携についての勉強会をして、長野オリンピックを通した長野市の役割というものを報告書にまとめたことがあります。その中で、長野市はアジアの森林リゾートを目指すべきではないかと報告しました。人口減少は、都市経営の中では大事なことです。どこを目指すのかということを中心軸に据えていかなければならないと思います。都市像のイメージをもう少し具体的にしていきたいと思います。

2018 年には、韓国で冬季オリンピックが開催される予定ですが、周辺に練習会場が必要になってきます。加藤市長がおっしゃったように、松本市と連携し、松本空港を利用して、長野県にある施設を練習会場として使うという提案を進めていただきたいと思います。

長野市の交流協定都市、友好都市、姉妹都市などは、現状いくつあるのでしょうか。

(柳沢企画政策部長)

姉妹都市としてアメリカのクリアウォーター市、友好都市として中国の石家庄市があり、それぞれ 5 年ごとに相互訪問をしています。石家庄市については、一昨年訪問した際、教育などこれまでの交流に加えて、例えば長野市のおやきを P R するといった物産等経済的な面も含めた交流を行いました。クリアウォーター市とは、来年で姉妹都市提携 55 周年ということで、いずれにしてもより多面的な部分での交流を図っていききたいと思います。

(小山商工観光部長)

私たちが所管するのは観光分野ですが、現段階では、金沢市、福井市、富山市、上越市、静岡市、甲府市と集客プロモーションパートナー都市協定を結び、ホームページや広報で

お互いの観光情報を紹介しています。大きな催し物があれば、お互いに観光ブースを出すなど、具体的な交流をしています。

(小林副会長)

委員の皆さまからいろいろな意見が出ていて、長野市もいろいろな取組をしているということですが、先ほどの大杉先生の講演で感動したのが、「総合計画は公共計画であり、市民も一緒に作り上げていく」というお話でした。

今日の朝刊に昨日の加藤市長の記者会見の記事が大きく出ていました。健康長寿を政策の柱にしたいという見出しが出ていて、長野市ではすでにそのように話が進んでいるのかと驚きました。大杉先生のお話をお聞きし、総合計画審議会の委員みんなで人口減少について話し合いたいと思った日の朝に、市長の考えが先に新聞に出てしまったことは、タイミングが悪かったと思いました。子育ての部局を作るのも大事なことですし、中山間地域の活性化に向けて市長が動いているのも良く分かりますが、何もかもでは、長野市の特色が出せないと思います。先進事例がたくさん紹介されましたが、長野市がこういうものを打ち出しても、それを市民のみんなで共有しなければ形だけのものになってしまいます。そういった意味では、今日の大杉先生のお話をもっと多くの市民も聞き、自ら考えていかなくてはいけないと感じました。

(宮前委員)

長野市は合併によっていろいろな地域が加わったので、宇都宮市の公共交通ネットワークが参考になるのではないかと思います。新幹線の金沢延伸に伴い、二次交通の充実という問題があります。観光客を呼び込むことも大事ですが、住民にとっても各地域が独立している状況から脱するためには、各拠点を結ぶ公共交通が大事だと思います。宇都宮市の新交通システム整備のための予算はどれくらいなのでしょう。

そこで1つ質問です。長野市は歳入決算額に占める地方税の割合が37.7%であるのに対し、柏市や流山市は50%を超えていて、宇都宮市も46.8%とかなり高い。長野市の収入構成や今後の予算関係について教えていただきたいと思います。

(山澤財政部長)

資料1の4ページと、資料2の各市の平成24年度決算状況の項目を見ていただきたいと思います。長野市の地方税の割合は、数年前は42%ほどでしたが、37.7%に落ち込んでいる理由は、歳出が大きすぎるからだと考えます。平成24年度は、プロジェクト事業が本格化した年なので、特に歳出（建設事業費）が増えていること（に伴い、財源となる国庫支出金や市債などが増えたため、相対的に地方税の割合が下がったこと）を勘案していただきたいと思います。

(宮下委員)

今後のスケジュールとして、5月に市長への提言とありますが、2月に委員が意見を提出し、4月に審議会を行い、限られた会議の中で意見を1つにまとめるのは難しいと思います。今日の会議でも、都市像について、具体的な政策についてなど、委員から多様な意見が出されました。そこで、2月に提出する意見は、どのような視点で考えるべきなのか、今日確認して意思の疎通を図らないと、成果としてまとめられないと思います。

私自身は、人口減少は決してマイナスではないという大杉先生のご意見に賛同する部分もあります。平成52年には、長野市の人口は今から8万人減って30万人になると推測されていますが、30万人という人口は、長野県の中で一番多いことに間違いのないと思うので、全くマイナス部分ではないと考えます。あとは、アイデア次第だと思います。

いくら人口が減少しても、仕事をしてお金を稼いで食べていかななくてはいけないという社会は変わらないので、民間企業の活動が、人口構成の変化後、どのように社会の歯車として動いていくのかということであり、会社を経営する者としては、民間企業と行政が強く関わりを持てるような社会であれば、より効率的な社会構成が成り立つと思います。

(谷委員)

長野市のキャッチフレーズというと、どうしても善光寺が付いて回りますが、私は最近、日本各地の災害の様子を見て、長野市は災害が非常に少ない地域だという印象を受けました。そういったことをキャッチフレーズにしたらどうかと思います。

今は、交通がなくても、インターネットでいくらでも全世界にネットワークが広がりますし、特に、長野市には日本各地の市町村のシステム構築やデータ保管で株価を上げている民間企業もあります。

企業誘致の時、大企業の誘致を考えるのではなく、小さな企業を、ネットや災害に強い長野市をアピールして誘致すれば、就業人口が増えると思いますし、ネットということになれば若者も増えると思います。

(高木委員)

先ほど、酒井委員からお話がありましたが、私も具体的な長野市のまちづくりのイメージがあって、そこから意見や提案が出せば良いと思っています。

大杉先生の講演で、「地域住民が幸せと思うことが大事」、「地域の眠れる資源を再発見することが大事」、「地域と一緒に考えていくことが大事」だということをお聞きしました。

私は一市民としてこの会議に参加しているのですが、このような会議の体制だと意見が出しづらいので、市民でも意見が出しやすい場があれば良いと思います。

(市川委員)

私は、一昨日、南箕輪村にどうしてこんなに人口が増えるのか電話で問い合わせをしま

した。やはり行政が人口増加のために宅地開発を進めているとのことでした。人口は、現在1万4,800人ほどなので、今年中に1万5,000人を目指しているという話でした。中山間地域において人口を増やすことは、住民自治協議会の力だけではどうにもならないので、長野市が、積極的に空き家対策などをしていただきたいと思います。

空き家対策を実施している1市3村に問い合わせたところ、全てがインターネットにより空き家情報を発信していたので、長野市もインターネットによる空き家対策をしていただきたいと思います。特に市営住宅は市民の財産なので、有効活用してもらいたい。

(藤沢会長)

委員の皆様、多数のご意見ありがとうございました。

私は、長野市のイメージ、将来像をどう作るかが審議会の役割だと思っています。いろいろと個別に出てくる問題は、行政と市民が一緒になって解決していくべきだと思います。そこに住む住民には、安全の問題やエネルギーの問題などが関わってくるのですが、長野市のイメージ、将来像には、子どもから高齢者までが生き生きと暮らしていける社会を描くことができれば、今後の進め方としては非常に良いと思います。今後も会議を重ねて、皆さんの意見をまとめていきたいと思います。

それでは、最後に、本日オブザーバーとして会議にご出席いただいております、大杉先生から、本日の審議会の感想や、今後審議会としての提言をまとめていくにあたってのアドバイス等をいただければと思いますので、よろしくお願いします。

(大杉先生)

限られた期間や回数の中で難しいとは思いますが、皆さんが建設的な意見を出されていて、大変熱心に検討されていると思いました。先ほど会長もおっしゃったように、どのような長野市のイメージを作っていくか、このような会議体はもちろん、個別に意見を出していただくなど、それ以外の手段も使って、練り上げていってほしいと思います。

私は先ほどの講演の中で、人口減少をチャンスに変えることについて、具体的なものをあえて言いませんでした。空き家や遊休農地について、何人かの委員がおっしゃっていましたが、人口が減っていく中で、当然空いてしまう場所が出てくるので、それをどのように活用していくか、いろいろと方法はあると思います。行政のバックアップも必要ですが、全国で空き家対策に取り組んでいるので、普通にやっているだけでは埋まりません。その地区に、どのような人たちに来てほしいのかについて、もっと考えていくべきだと思います。

善光寺は、日本全国、世界各地から観光客が訪れる場所なので、交流人口というものは、非常に重要な視点だと思います。交流や観光について考えた時に、日本に決定的に欠けているものが広場だと思います。酒井委員のお話に富山市のことが出てきましたが、あそこには中心市街地活性化の数少ない成功事例があります。商店街のすぐ横に、いろいろな人

が集まって、居心地よく寛げる広場を作ったのですが、これは素晴らしいことだと思います。行き来するだけではなく、少し止まって何かする場、観光客も地元の人も居心地よくいられる場というものがないと、本格的な交流にはならないと思います。

北陸新幹線が延伸されますが、長野駅は立地は良いと思うので、それをどう活かしていくかは皆さんの知恵次第だと思います。人を引き付けるような広場のようなものを、都市空間の中にどう作っていくか、皆さんにお考えいただきたいと思います。

(藤沢会長)

先生、ありがとうございました。

4 その他

(藤沢会長)

続きまして、「今後の予定」についてですが、資料1の14ページをご覧ください。市長への提言については、前回の審議会でお示ししたとおり、本年5月を目処に行う予定ですが、今後、委員の皆様には、「人口減少時代に対応したまちづくり」について、2月21日までに、ご意見を提出いただきますようお願いいたします。本日ご発言いただいた意見の内容と同じでも構いませんし、新たにご意見でも構いません。

これまで審議会で行った意見交換でのご意見、今回提出いただくご意見をまとめた上で、私と小林副会長が審議会を代表して、3月に市長と意見交換をさせていただき、その後、審議会としての提言をまとめたいと考えています。

意見の提出に関する詳細につきましては、資料1の15ページをご覧ください。

加藤市長も、人口減少時代に対応したまちづくりについては、市政の重要な課題と位置づけており、審議会からの提言に期待していると聞いています。お忙しい中恐縮ですが、よろしく申し上げます。

私からは以上になりますので、進行を事務局にお返しします。

5 閉会

(事務局)

長時間にわたり、ありがとうございました。

以上で、平成25年度第3回長野市総合計画審議会を閉会いたします。